

座談会「サルからヒトへ、別刷サイエンス、特集動物社会学, 118-136頁。

- 3) 東滋：岐阜県カモシカ生態調査報告書, 1975年度。
- 4) 東滋：ニホンザル個体群の維持に対する森林施業の影響—下北半島の例から—

学会発表

- 1) ゲラダヒヒの社会(I)
 - 河合雅雄
 - 日本アフリカ学会第12回学術大会(1975)
- 2) テレメトリ法によるサル類の行動解析
 - 河合雅雄
 - 第22回日本生態学会大会(1975)
- 3) 下北半島におけるカモシカの生息密度の変動I, 下北半島西南部の場合
 - 東滋・森治・和田久・足沢貞成
 - 宮木雅美・大竹勝
 - 日本哺乳動物学会(1975)
- 4) ゲラダヒヒの社会(II)
 - 森梅代
 - 日本アフリカ学会第12回学術大会(1975)

変異研究部門

野沢 謙・和田一雄
西邨頌達・庄武孝義

研究概要

- 1) ニホンザルの集団遺伝学的研究
 - 野沢 謙・庄武孝義
 - ニホンザルの血液蛋白の構造を支配する遺伝子の変異を電気泳動法によって検索し, 群内, 群間の変異性を定量化する。昨年度までにニホンザル約40群, 総個体数約1,500頭の血液試料について, 27種の蛋白の構造を支配する計29遺伝子座の検索をおこなった。このデータをもとにして, 統計的検討を加え, 繁殖単位間の毎代の移出入率, 遺伝的変異の散布範囲などについて定量的推定を行い, ニホンザルの繁殖構造を解明すべく作業続行中である。
- 2) *Macaca* 属サルの系統的相互関係
 - 野沢 謙・庄武孝義
 - ニホンザルを含む *Macaca* 属サル 各種から採血をおこない, 上記 1) と同一の方法によって種内, 種間の遺伝的変異性を定量化し, それら種間の遺伝子構成上の差を遺伝距離で表現し, それに数量分類学的手法を適用して枝分れ図を描く。それにより種間の近縁関係, 分化時間の推定等をおこなう作業を目下続行中である。
- 3) ニホンザルの先天的四肢奇型への遺伝学的アプロー

チ

野沢 謙・庄武孝義

ニホンザルの数多くの餌付け群に多発する先天的四肢奇型が遺伝的支配を受けているか否かを明らかにすべく研究が続行されている。集団の奇型出現の家族集積性のデータから統計遺伝学的手法を用いて遺伝率の推定をおこなう他, 淡路島野猿公園の協力を得て, 交配実験をおこなっている。

- 4) 家畜化現象と家畜系統史の研究

野沢 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査によって, 家畜化現象そのものの集団遺伝学的解明と, 個々の家畜種内で地域集団間の遺伝的分化の程度, 系統的相互関係の解明を行ないつつある。1974年度のマレーシア調査の成果を庄武が1975年4月日本畜産学会において発表した。

- 5) エチオピアにおけるマントヒヒとアヌビスヒヒの種間雑種に関する遺伝学的研究¹⁾

庄武孝義

1975年8月より1976年3月まで海外学術調査「エチオピアにおけるヒヒ類の種間関係, 特に雑種の比較研究」の隊員として参加し, アワシユ地区でマントヒヒとアヌビスヒヒの雑種の実態を遺伝学的に明らかにするため, マントヒヒ, アヌビスヒヒ, それらの雑種と思われるもの約400頭の採血を行ない, 血液を日本に持ち帰った。目下この血液を用いて電気泳動法により, マントヒヒ, アヌビスヒヒ, それらの雑種の遺伝子構成を明らかにするために, 実験を行ないつつある。

- 6) 志賀A群総合調査の組織化

和田一雄

われわれはこれまでの生態研究成果の上に生理・形態・集団遺伝・繁殖生理等の諸分野から寒冷適応の実態を明らかにする研究を組織したが, その一部を分担した。

- 7) 志賀C群の冬期の遊動

和田一雄

志賀高原でもっとも標高の高い地域に分布するC群の気象・植生との関係を調査した。同時にC群の保護運動にも加わった。

- 8) ゼニガタアザラシの分布調査

和田一雄

哺乳類研究グループ海獣談話会の調査を分担した。

- 9) ネパールにおけるアカゲザルとヒマラヤンラングールの生態地理学的調査

和田一雄

1972年度のインドにおける同種の調査の継続として行

- 1) 河合雅雄, 岩本光雄, 森梅代, 菅原和孝との共同研究

なう。又、田端英雄助教授(京大・理)との共同で同種の植生との関係を1つの重点項目とする。

10) ニホンザルの社会生態学的研究

西 邨 顕 達

野外調査は行なわず。高崎山で過去4回生じた群れ分裂を中心とした群れ社会の歴史的变化に関する資料の整理と発表準備。

11) 広鼻猿類の社会生態学的研究

西 邨 顕 達

1975年7月より1976年3月までコロンビア領アマゾン上流域でウーリーモンキーを中心とした調査を行なう。食性、遊動、個体の行動、個体間関係、群間関係についてかなりの新しい知見が得られた。

総 説

- 1) 和田一雄(1976): A. H. Северцов の進化形態学と C. A. Северцов の進化生態学の評価をめぐって。ミチューリン生物学研究12(1)
- 2) 和田一雄(1976): セベルツォフ学派の紹介と評価——「個体発生過程における適応放散」(バスネツォフ1946) 哺乳類科学 32
- 3) 野沢 謙(1975): 家畜化と集団遺伝学。日本畜産学会報 46: 549-557。

論 文

- 1) Nozawa, K., T. Shotake and Y. Ohkura (1975): Blood protein polymorphisms and population structure of the Japanese macaque, *Macaca fuscata fuscata*. In *Isozymes IV, Genetics and Evolution*, (ed. C. L. Markart, Academic Press) pp. 225-241.
- 2) Nozawa, K., T. Shotake, Y. Ohkura, M. Kitajima and Y. Tanabe (1975): Genetic variations within and between troops of *Macaca fuscata fuscata*. In *Contemporary Primatology*, S. Kondo, M. Kawai and A. Ehara. (eds.) Karger, Basel. pp. 75-89.
- 3) 野沢謙・庄武孝義・大倉よし子・田名部雄一(1975): ニホンザル志賀A群の遺伝的変異性。生理・生態 16: 99-103.
- 4) Kitajima, M., Y. Ohkura, T. Shotake and K. Nozawa (1975): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*. IV. Erythrocyte esterase polymorphism in *Macaca fuscata*. *Primates* 16: 399-404.
- 5) Shotake, T., Y. Ohkura and K. Nozawa (1975): A fixed state of the PGM²_{mac} allele in the

population of the Yaku macaque (*Macaca fuscata yakui*). In *Contemporary Primatology*. S. Kondo, M. Kawai and A. Ehara (eds.), Karger, Basel, pp. 67-74.

- 6) Ishimoto, G., M. Kuwata and T. Shotake (1975): A variant hemoglobin found in *Macaca fuscata*: Another polymerizing hemoglobin of Macaques. *J. Anthropol. Soc. Nippon*, 83: 233-243.
- 7) 和田一雄(1975): 志賀高原の冬期におけるニホンザルの生態とその適応的意義。生理・生態16: 9-14.
- 8) 和田一雄・森谷潔・原文江・大沢济(1975): 志賀高原のニホンザルの体脂肪について。生理・生態16: 104-107.
- 9) Nishimura, A. and K. Izawa (1975): The group characteristics of woolly monkeys (*Lagothrix lagothricha*) in the upper Amazonian basin. In *Contemporary primatology*. S. Kondo, M. Kawai and A. Ehara (eds.), Karger, Basel, pp. 351-357.

学 会 発 表

- 1) ニホンザル集団の繁殖単位
野 沢 謙
第47回日本遺伝学会(1975)
- 2) ニホンザル種内の遺伝的分化
野沢 謙・庄武孝義
大倉よし子
第20回プリマーテス研究会(1976)
- 3) マレーシア在来山羊の遺伝子構成
庄武孝義・西田隆雄
藤尾芳久・田中一栄
第64回日本畜産学会(1975)
- 4) ニホンザルのセメント質の年輪による年令鑑定について
和田一雄・大森司紀之
八谷 昇
水産学会シンポジウム
「水産資源学の視点から」

生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎
小山直樹・大沢秀行

研 究 概 要

- 1) ニホンザル個体群生態学的研究
杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行
1. 霊仙山生息ニホンザル地域個体群の動態。餌付け